

平成20年度東北農政局長賞

『つがる弘前農業協同組合とうもろこし部会』青森県弘前市

【むらづくりの経緯・動機等】

岩木山麓の常盤野集落、通称「^{だけ}嶽地区」では、農業用水に乏しく、土壌も耕作に不向きであった。このため、地域に適合する農作物や家畜の飼育を試みてきたが、なかなか見つからず、経営難で離農する人も少なくなかった。

このような状況の中で、昼と夜の寒暖差が大きい高原の気候を生かした「とうもろこし」栽培の成功が契機となり、農家が共同で販路拡大に取り組む「嶽きみ」生産者の協議会が発足し、現在に至っている。

【位置】



【地区の概要】

つがる弘前農業協同組合とうもろこし部会

項目	内容	
規模	集落 (1集落)	
性格	機能的な集団	
農家率 (内訳)		28 %
	総世帯数	80 戸
	農家数	22 戸
販売農家数 (内訳)		22 戸
	専業農家	9 戸
	種農家	11 戸
	種農家	2 戸
主要作物 (作付面積)	とうもろこし	150 ha

【推進体制】

つがる弘前農業協同組合とうもろこし部会は、組合員の栽培技術及び所得の向上を目的として、地区内の農業者20名で構成されており、常盤野町会や嶽観光連絡協議会と連携して活動している。

【生産面への寄与状況】

「嶽きみ」は、堆肥を多く施用し、農薬を慣行の3割程度に減らして栽培している。平成16年度には、農家の発意により部会員の全員がエコファーマーの認定を受けている。高い糖度とジューシーさから、生でも食べられると消費者に評判となり、臨時直売所へは県内外から多数のお客様が来訪している。また、平成19年には「嶽きみ」が地域団体商標として登録されている。



【生活・環境整備面への寄与状況】

他地域では高齢化等により農業労働力が減少する中、常盤野集落は農業所得の安定確保により農業後継者の就農率が高く、また、大規模経営の割合も高い。女性リーダーによる農産物加工への取組みや、農業体験学習を受け入れるような体制づくりの取組も始まっている。さらに、地域住民参加による県道沿いへの「オオヤマザクラ」の植林にも積極的に取り組むなど、地域活性化に繋がっている。

